



令和元年

淡路市・義烏市友好都市協定

5周年記念式典

—海外派遣報告書—



中国・义乌
Yiwu China



派遣期間：令和元年7月10日(水)～12日(金)



淡路市友好親善使節団

～目次～

◆義烏市の概要		1
◆淡路市友好親善使節団の概要		2
◆訪問ダイジェスト		5
◆淡路市友好親善使節団員報告書		
☆義烏市友好都市協定5周年記念使節団に参加して	山名 実	8
☆中国義烏市友好都市提携5周年記念友好親善使節団として	太田 善雄	10
☆淡路市友好親善使節団派遣事業に参加して	落町 敏幸	12
☆私が見た隣の国「中国 義烏市」	小田 美根子	14
☆中国浙江省義烏市(友好提携5周年記念)友好親善使節団派遣報告書		
	西濱 雅樹	17
☆淡路市・義烏市友好都市提携5周年記念	薛 秋燕	20
別添資料		
日本国兵庫県淡路市・中華人民共和国浙江省義烏市友好都市協定確認書（日本語と中国語）		

【義烏市の概要】

いうし

1. 義烏市の概要

■地名（中国語・簡略字）

义乌市（イーウースー）

■場所

中国東南沿海の浙江省の中部に位置する。
中国最大の都市上海から西南に約 300 キロ。

■人口

223 万人余り
※淡路市の約 50 倍

■面積

1105 k m²
※淡路市の約 6 倍

■経済都市

改革開放開始以来、「商業を勃興し、都市を建設する」という発展戦略のもと、急速に発展した都市。現在 219 の国・地域と取引があり、世界各国のビジネスマンにとって国際貿易を展開する重要な拠点となっている。

■市場都市

世界最大の日用品雑貨卸売市場と称される義烏国際商貿城は、5 つの建物に分かれており、総面積 640 万 m² で、1 年間に訪れる外国人バイヤーは 50 万人以上。7 万軒の店舗があり、210 万種類以上の商品が集積されている。全ての店舗を見学するのに 1 年半以上かかると言われている。

■見本市都市

国家レベルの見本市が多く開催される。

■市のマーク・花・木



義烏市位置



中国・义乌
Yiwu China

市のマーク



市の花（コウシンバラ）



市の木（楠の木）

友好親善使節団の概要

1. 【訪問期間】 令和元年 7 月 10 日（水）～7 月 12 日（金） 3 日間

2. 【目的】

淡路市では、世界一の日用品雑貨市場を中心に目覚ましい経済成長を遂げている中国浙江省義烏市と、両市の発展に向け、経済交流、観光交流、国際交流等、様々な分野において、官民一体となった交流を進めていくため、友好都市協定を締結しました。

今年は友好都市提携 5 周年を記念し、義烏市では記念式典をはじめ、市内視察、政府や企業、民間交流を行なうため、7 月 10 日から 12 日の 3 日間、6 名の友好親善使節団を派遣しました。

3. 【団員構成】

番号	氏 名	(中国語読み)	性別	所属
1 (団長)	ヤマノ ミノル 山名 実	サンミン ス	男	淡路市総務部長
2 (副団長)	オオタ ヨシオ 太田 善雄	タイテイエン サンション	男	淡路市議会議長
3	オチマチ トシユキ 落町 敏幸	ルオディン ミンシン	男	市民
4	オダ ミネコ 小田 美根子	シャオテイエン メイゲンズ	女	市民
5	ニシハマ マサキ 西濱 雅樹	シービン ヤスウ	男	淡路市企画情報部秘書広報課課長補佐
6	セツ シュウエン 薛 秋燕	シエー チューイエン	女	淡路市企画情報部秘書広報課国際交流員

内訳	市職員	3 名（男 2 名、女 1 名）
	市議会	1 名（男 1 名、女 0 名）
	一般参加	2 名（男 1 名、女 1 名）
	合計	6 名（男 4 名、女 2 名）

4. 【行程概要】

7月10日（水）

- 9：00 淡路市役所集合・出発
- 14：20 関西国際空港発（ANA NH951）
- 15：50 中国杭州蕭山国際空港着
- 18：30 銀都ホテル着（宿泊先ホテル）
- 19：00 知東学会（義烏星空集美生物科技有限公司）と意見交換会（歓迎懇親会）

7月11日（木）

- 10：00 義烏市都市計画展示館視察
- 11：00 淡路市・義烏市友好都市協定確認調印式（義烏市政府4階会議室）
- 12：00 昼食（義烏市政府来賓用食堂）
- 14：40 義烏国際商貿城（1、5区）視察
- 16：00 義烏市政府外事・僑務弁公室（在住外国人サービスセンター）視察
- 17：30 義烏市政府外事・僑務弁公室による歓迎懇親会（市内レストラン）

7月12日（金）

- 10：00 義烏森山薬局・森山小鎮公園視察
- 11：30 昼食（義烏佛堂古鎮内レストラン）
- 16：40 杭州蕭山国際空港（ANA NH952）
- 19：40 関西国際空港着
- 22：30 淡路市役所到着・解散

5. 淡路市・義烏市友好都市協定確認調印式概要

- 1) 日時：2019年7月11日（木）AM11：00～11：45
- 2) 場所：義烏市政府4階会議室
- 3) 出席者（義烏市側）
 - ①陳 小忠（中国共産党義烏市委員会常務委員、常務副市長）
 - ②多 佳（中国共産党義烏市委員会常務委員、副市長）
 - ③胡 愛芬（義烏市人民代表大会常務委員会副主任）
 - ④吳 丹（義烏市外事弁公室主任）
 - ⑤程 建芳（義烏市文化体育観光局副局長）
 - ⑥朱 躍望（義烏市教育局共産党委員会委員）
 - ⑦龔 希明（義烏市外事弁公室共産党組委員）

出席者（淡路市側）

- ①太田 善雄（淡路市議会議長）
- ②山名 実（淡路市総務部長）
- ③落町 敏幸（淡路市民）
- ④小田 美根子（淡路市民）
- ⑤西濱 雅樹（淡路市企画情報部秘書広報課課長補佐）
- ⑥薛 秋燕（淡路市企画情報部秘書広報課国際交流員・通訳）

4) 日程・内容

- 11：00～11：15 義烏市 陳 小忠義烏市常務副市長よりあいさつ
- 11：15～11：25 淡路市 山名 実使節団長よりあいさつ
 - ※門市長のメッセージビデオの放映
- 11：25～11：30 交流会
- 11：30～11：35 友好都市協定確認書調印
 - ・義烏市：陳 小忠（義烏市常務副市長）
 - ・淡路市：太田善雄（淡路市議会議長）
- 11：35～11：40 記念品交換、記念写真

☆ 訪問ダイジェスト ☆



関西国際空港出発

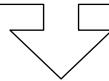


知東学会との意見交換



「星空集美」会社にて

7月10日（水）



淡路島観光動画放映

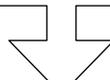


新潟市の歴史紹介



両市児童絵画交流展

7月11日（木）午前 新潟市都市計画展示館





義烏市からの記念

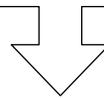


写真の左：淡路市議会議員 太田 義雄、写真の右：義烏市常務副市长：陳 小忠



淡路市からの記念品

7月11日（木）午前 友好都市協定提携確認書調印式



義烏市国際商貿城

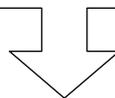


義烏市人民政府外事サービスセンター



義烏市人民政府外事サービスセンター

7月11日（木）午後 市内視察





森山小鎮公園視察



森山薬局視察



木の化石

7月12日(金)午前 市内視察

義烏市友好都市協定5周年記念使節団に参加して

淡路市総務部長 山名 実

中国義烏市との友好都市協定の締結をしたのが2014年(平成26年)、その時私は企画政策部の秘書広報課長として携わった経緯があります。その私が今回の友好都市協定5周年記念使節団の団長として参加することになったのは、何か偶然とは思えないものを感じました。

令和元年7月10日から12日の2泊3日で中国義烏市を訪問したのですが、メインの行事は2日目の『淡路市・義烏市友好都市協定確認調印式』です。

しかし、この式典の次第が出国までなかなか詳細が決まらず、現地に到着した日の夜にやっと確定したのですが、義烏市の担当の副市長と義烏市の外事弁公室の職員とで前日の夜遅くまで調整されたようでした。



『淡路市・義烏市友好都市協定確認調印式』

調印式で義烏市側から「経済交流」、「観光交流」、「教育交流」の3つの提案がありました。このことは、淡路市側も同様の意見である旨をお返ししました。教育交流は、小・中学生は言葉の問題もあり課題もあると思いますが、淡路市では小学校4年生以上にタブレット端末を貸与しているので、それを活用した交流ができないか提案をさせていただきました。



知東学会との懇親会

また、行政交流だけではなく、民間交流の拡大が重要であると思われます。義烏市からは、毎年「知東学会」という民間組織のメンバーが日本を訪問し、淡路市にも来られます。彼らは若い経営者集団で日本そして淡路市との経済交流を望んでいます。

また、淡路市からの訪問使節団に対して、知東学会主催による懇親会も開催していただけます。

その後、義烏市の副市長と淡路市の議長（双方の市長は公務のため不参加、事前に署名済）が確認書に署名を行い無事公式行事は終了し、昼食をとりながらの意見交換。総勢20名余りの中で通訳は3名という状況は大変だったと思います。

次に義烏市に対する感想ですが、さすがに200万人を超える市ですので、

人の波がすごいです。夜も遅くまでにぎやかです。

義烏市は寂れた農村であったのが、40年余りで現在の状況まで発展し、世界の奇跡とまで言われているようです。

義烏市の都市計画は、2030年で街のインフラを完成させる目標を掲げています。寂れた農村から道路計画を作り、公共施設（小商品市場を含む）配置し、市街地を形成していく。既成の街を新たに再構築するのと違い、非常に効率よく進めることができます。旧北淡町で区画整理事業という難題をみてきた私としては羨ましい限りでした。



巨大な都市計画模型



義烏市都市計画館視察

最後に、義烏市の熱烈な歓迎と、今回の訪問の機会を与えていただいたことに心から感謝をして私の報告とさせていただきます。

中国・義烏市友好都市提携5周年記念友好親善使節団として

淡路市議会議長 太田 善雄

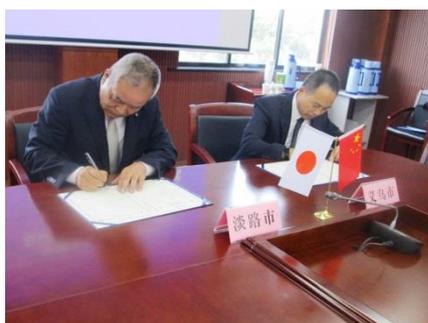
私はこの度、淡路市の友好都市である義烏市へ提携5周年記念使節団員として渡航しました。今回の旅程は7月10日から12日の2泊3日、初日と最終日がほぼ移動でしたので義烏市に滞在できたのは短い時間でしたが、義烏市政府の方々の手厚いサポートにより充実した訪問日程となりました。

訪問初日は、私たちの義烏市到着が夕刻にも関わらず、地元の若い起業グループ（知東学会）が自らの経営する会社を案内してくれました。30代の若い会社組織ですが、社内はトレンドードラマ顔負けのお洒落なオフィスでした。たいへん華やかな雰囲気の中、私たちは経済や互いのまちの発展についての意見交換もできました。

2日目は、義烏市都市計画展示館を案内いただきました。

都市計画展示館へ入ると大きなエントランスがあり、そこには淡路市と義烏市の子どもたちの絵画作品の特別展示と巨大なスクリーンでの淡路市の観光動画が放映されていたことにたいへん感銘を受けました。義烏市政府の友好都市である淡路市を義烏市民に知ってほしいという想いを感じました。

都市計画展示館の見学の後、義烏市役所庁舎を表敬訪問しました。市役所内では、大きな会議室に政府関係者、マスコミや報道陣も集まるなか、陳 小忠常務副市长、多 佳副市长ほか、たくさんの方々が私たち使節団を迎えてくれました。



政府庁舎はとても古いようですが、今もなお200万人都市の威厳が保たれています。両市の歓迎挨拶、記念品交換もさせていただき、私が議長として、淡路市を代表し友好提携確認書への調印を行いました。

また、公務により訪問できなかった門市長のビデオメッセージも会場内で放映されました。午後は、「義烏国際商貿城（福田市場）」を視察しました。この施設では、衣料品、装飾品、カバンや靴等、ありとあらゆる品物が混在しており、人口密度も非常に高く、館内はたいへんな活気に溢れていました。特に私



がおどろいたのは、品物がすべてがロット販売されており、まさに商人のための施設となっていたことです。ヨーロッパや中東など人種も多様で、輸出入にかかる世界中のバイヤーたちが品物を求めてやってきていることがすぐにわかりました。

その後、義烏市外事・僑務弁公室のセクションの一つを視察しました。国際色豊かな窓口となっており、在住外国人や企業関係も含め、国内外の転入・転出者の届出や在住資格等の窓口業務が行えるサービスセンターでした。

この日の夜は、外事・僑務弁公室の方々が私たちのために市内レストランで夕食会を用意してくれました。歓迎の地元料理が並んだ円卓を囲み、これからの両市の交流などについて語り合うことができました。

最終日は、多副市長が森山小鎮公園を案内して下さいました。施設内では数百点の薬草や植物が展示され、また試飲、販売もされていました。私たちの旅の疲れを癒そうと、副市長のはからいでした。また、屋外公園ではリラックスした環境のなか、多副市長と「友好」をテーマに将来を担う子どもたちのことや、両市の友好関係についても真摯に話し合うことができました。

最後に、視察の全行程を終えて振り返ると、義烏市の関係者の方々から温かい歓迎を受け、会食時には銘酒を酌み交わしながら、互いの文化や歴史の違いを知ることができました。自分なりに、交流を図るべく事前に中国語の挨拶を練習し、自動翻訳機を持参してみました。やはり発音がなかなか難しく思うようには通じませんでしたが、心を通わせることはできたのではないかと感じました。また、こうして育まれてきた絆を今後どう深めるか、大変意義深く考えさせられました。

今回、このような貴重な機会をいただけたこと、心より感謝を申し上げます。

淡路市友好親善使節団派遣事業に参加して

落町 敏幸

7月10日午後2時20分、関西国際空港発の全日空便で中国杭州^{しょう}蕭山国際空港へ出発をしました。友好使節団は山名団長以下6名で、私は市民代表として参加しました。

杭州^{しょう}蕭山国際空港から義烏市までは手配されたマイクロバスにて移動し、ホテルに着いてから、義烏市の知東学会の主催による交流会に参加しました。最初は彼達の会社を案内されました。着いた会場には、私たちを歓迎する花束と横断幕まで用意され、互いの自己紹介をした後、言葉に苦労しましたが、若い企業経営者と食事をしながら互いのまちのことについて話し合うことができました。

翌日11日は、義烏市の表敬訪問です。都市計画展示館にて市の計画、発展状況などの説明を受け、両市の子どもたちの絵画と淡路市の街の様子の展示を見ることができました。義烏市もこの交流に熱意をもっていると実感しました。



都市計画展示館を見学した後、市庁舎会議室にて門淡路市長から送ったビデオメッセージをはじめとした記念式典と友好都市協定確認の調印式に参加しました。ここでも義烏市の副市長の話聞いて、淡路市との友好関係を大切にしていきたい、継続していきたい等の熱意が感じられました。

午後は国際商貿城という、日本では考えられないスケールの雑貨商品等を展示販売している建物を視察しました。日本でも販売されているおもちゃ、ぬいぐるみ、装飾品等が山積みにおかれていました。あと、現地を訪れている人の多さに驚きました。

そして夕食も中国ならではの料理、珍しい料理をたくさんいただきました。

3日目、視察最後の日。多(夕)副市長の案内で化石などを展示している公園を見学しました。義烏市でも高齢化が進む中で子育て教育に力を入れており、この施設は義烏市だけの児童でなく他の市の児童や学生にも歴史文化を学ぶ場所として提供している。多(夕)副市長からは淡路市の児童や学生にも来てほしいとメッセージをいただきました。



友好親善使節団の一員として参加したことについて感じた点は

- 1.滞在期間を2日間ぐらい延長してゆっくりと交流したい。
- 2.市民同士の交流も考えてほしい。
- 3.夏休みなどを利用した児童や学生だけの交流もよいのではないか。
- 4.淡路市民のほとんどの人は義烏市との交流を知られていないのでは。広報紙を通じてもっと周知し、関心を高めてほしい。
- 5.義烏市の人たちの交流に対する熱意に淡路市民として、もっと答えることができるのではないか？

私が見た隣の国「中国 義烏市」

小田 美根子

関西国際空港を出発し、2時間足らずのフライトで雲の隙間から見えた町並みは明らかに日本ではないことは分かりました。そして、私が想像していた中国の町並みとも違いがありました。整然と高いビルが立ち並んでいて田畑も整備されているように見えました。空港のトイレは便座にビニールシートが被られてスイッチを押すとぐるっと回って清潔なシートと交換しました。空港を出て迎えに来て頂いた車で走ると、楠木と思われる街路樹が延々と続き赤いバラや黄色い花が植えられている間の4車線を悠々と乗用車が走っていました。とても気持ちのいい美しい街の第一印象を持ちました。



迎いの車に乗って、まずびっくりしたのは通訳として随行していただいた薛さんが急に早口になって案内の方と中国語で話し始めた時です。薛さんに「水を得た魚ですね。」と言うと「えっ、それはどういう意味？」と聞かれました。ホテルで一本のペットボトルを開けて紅茶を入れようと袋を開けると茶葉がバラバラとこぼれてしまいました。ティーバッグでなかったと気づいて茶こしを探しましたがありません。薛さんに聞くと中国では茶こしを使わず、お茶の色や茶葉の形を楽しんで一緒に飲むと教えて頂きました。市役所でお茶が出た時も、森山薬局で試飲した時も一緒に飲み干してくださいと言われたことも納得出来ました。日本でも茶柱が立つと縁起がいいと言われますが茶葉まで飲むことはありません。同じアジアとは言え、文化は少し違うことに気づきました。



知東学会の方々の歓迎は素晴らしかったです。エレベーターを降りると花束を持った美しい女性たちが待っていて、使節団員一人一人に花束を手渡してくださいました。会議室に案内され、淡路市訪問時の写真や淡路島での思い出ピ

デオが放映され、お菓子やフルーツと飲み物の他、メモ用紙やペンまで用意されていて、その様子をカメラマンが撮影していました。紹介の後、食事会場のホテルに向かいました。社長をはじめ皆さん若くてハツラツとしていました。ただ、会社の工場や販売する商品を見ることが出来なかったのは残念でした。ホテルでの料理はとても豪華で初めて目にする料理を美味しくいただきました。



2日目、築30年の義烏市役所で友好都市協定提携5周年記念式典が行われました。

「設備は整っていませんが、市の始まりの所なので案内したかったのです。」という副市長のお言葉に感銘を受けました。その後、義烏市都市計画展示館の見学では、スクリーンの大きさに圧倒されました。わずか40年の間に今の街を創り上げたということと、さらに10年後の姿を映し出す決意に感動しました。人民政府外事弁公室の方々との交流も楽しかったです。30歳代から40歳代の女性たちが政府の要職で活躍されていて、皆さん結婚して義父母と同居して子供を育てていると聞いて頼もしく感じました。子供たちの写真も楽しそうに見せて頂きました。



最後の日には「国草」を作っている森山薬局と育てている公園を見学しました。先日飲んだ時に「死んだ人も生き返る伝説の薬草が入っている。」と言われて、私が「どこで買えますか？日本に持って帰れますか？」と質問したので、予定を変更して案内して頂いたようです。その柔軟な対応に感謝しつつ高価なお茶は買えずでした。500種以上の薬草を発見し211種以上の薬草を保存しているのは素晴らしかったです。公園は大変広く化石になった木が何本も運ばれていました。入り口に「緑水青山就是金山銀山」の看板がありました。副

市長がそれを見ながら「どんなに経済が発展しても豊かな自然こそが大切です。淡路市のビデオを見て同じ想いを感じたので環境問題でも協力したいです。」と言われたことが印象に残っています。淡路市から用意したビデオでの夢舞台の様子を見て感じたそうです。



今回の私の失敗はお茶を入れようとした時です。ホテルには4本のペットボトルが2本ずつポットの横とテレビの前に置いてあって片方のペットボトルにはタグが付いていて「この水はホテル代金に含まれています。」と書かれていたのですが、中国語の読めない私は違う方を開けたためにチェックアウトで約350円の支払いをしました。言葉は勉強すべきですね。水は貴重です。

この度は家庭での生活は体験することが出来ませんでした。これまでの文化交流によって、日本の文化は中国から学んできたことが多いという事、そしてこれからも中国から学ぶことが大切である事を実感した視察研修となりました。日本の文化をしっかりと守りつつ他国の文化と似ている所や習慣の違いを受け入れていくことが大切であると感じました。小学生や中学生の交流の実現を希望します。

この度は、準備して頂いた方々、また同行して頂いた皆様のお陰で実りある楽しい視察研修となりましたことに感謝申し上げます。

この経験を子供たちに伝え、活かしていきます。

ありがとうございました。



中国浙江省義烏市（友好提携5周年記念）友好親善使節団派遣報告書

淡路市企画情報部秘書広報課
課長補佐 西濱 雅樹

2019年7月10日から12日までの3日間、中国浙江省義烏市を訪問しました。

訪問初日は、現地到着が夕方となりましたが、今年春に淡路市を訪問した義烏市の若い起業家グループ（知東学会）が私たちに歓迎してくれました。



知東学会との交流会のようす

彼らは自分たちの会社を是非、見てほしいと会社を案内してくれました。短い時間でしたが社員と使節団の意見交換会と食事会を用意してくれ、自分たちが淡路市を訪れた際の記録を映像にして思い出話のように話してくれました。また、彼らは私たちを「古い友達」（親友）と表現してくれていたのがとても印象的でした。

経済交流も含め淡路市の自然環境や文化もとても気に入ったようで、近く社員旅行で再び淡路市を訪問すると話していました。

2日目午前は、政府関係者の案内により都市計画展示館を訪れました。館内では、義烏市の経済発展の歴史やまちのメカニズムを詳細に知ることができる施設ですが、今年は友好提携5周年記念のため、両市の子どもたちの絵画と淡路市のまちの様子を紹介する展示、さらには館内の巨大スクリーンに門市長のメッセージ動画と観光PR動画が特別に放映されました。

さらに、館内には私たち淡路市からの使節団の訪問を知った、現地テレビ局のク



現地テレビ局からのインタビューの様子

ルー、報道記者も使節団へのインタビューや写真記録をとるため随行され、当日の義烏市内のテレビ番組等で私たちの訪問の様子を紹介するとの事でした。



その後、私たちは公用車にて義烏市政府庁舎内に設けられた、友好都市協定確認の調印式会場へ移動しました。

会場では、陳（チン）常務副市长から私たち使節団への歓迎メッセージがあり、淡路市からは山名使節団長の謝辞と会議室内に設置されたテレビモニターによる門市長のビデオレター、太田議長による協定確認書への調印

など滞りなく調印式が挙行されました。

調印式終了後は庁内にある来賓用食堂にて政府主催の歓迎昼食会に招待されました。

言葉の壁も感じつつ、通訳を交え、和やかな雰囲気の中、笑い話も飛び交う昼食会となりました。



協定確認書への調印のようす

2日目午後は、義烏国際商貿城を訪れました。商貿城は、5つの巨大な商業施設となっており1～4区は日用雑貨、5区はヨーロッパなどからの輸入商品を取り扱う施設となっております。商品はすべてバイヤーやネット販売向けにロット販売されていました。商品は多種多様であり、主に雑貨類が（小物、玩具、家具など）、全長5km、東京ドーム約30個分のスペースに約6万件の店舗が入っており、210万アイテムもの豊富な品揃えとなっております。1店舗を約3分で見て回ると1日8時間として、すべての店舗を見るのに1年半かかるという想像を絶する規模の施設でした。



商貿城1～4区のようす





商貿城を視察後、私たちは日常業務で関わりのある義烏市外事・僑務弁公室のセクションの一つを視察することができました。

現在、義烏市内には約15,000人の在住外国人が滞在しています。主な人種はアラブ人、インド人、マレーシア人、韓国人です。

外事・僑務弁公室には12部門のセクションがあり、今回は在住外国人のためのサービスセンターを視察しました。センターでは、「個人向けサービス」と「企業向けサービス」と大きく2つのサービスに分かれて運営されており、国内外の転入・転出者の届出や在住資格等の窓口業務が行われていました。言語対応も8か国と豊富なサービス態勢であり、無人機器によるサービスも行われていました。

滞在3日目は、多(タ)副市長の案内により、森山小鎮公園を視察しました。

ここは、子どもたちに農業・薬草のことも知ってもらうための体験施設となっており、屋内は、野菜、薬草等の研究栽培施設、屋外は111本の立派な木の巨大化石も展示されていました。この施設を案内してくださった多(タ)副市長からは、両市の公園を「友好公園」と位置付け、将来を担う子どもたちに両市のことをもっと知ってもらいたいとおっしゃられました。そして、こうして生まれた結果は、将来の両市の発展に必ず結びつくはず。また、民間交流を深めることが町の力を強く鍛え上げます。最後に、人と人との心の交流を大切にしましょうとの熱烈的なメッセージをいただきました。



無人機による支援サービス



森山小鎮公園にて

私自身、昨年11月の義烏市訪問より2度目の訪問となりましたが、義烏市政府、起業グループとの交流の中に、彼らが淡路市をパートナー市として思いを寄せる気持ちとこれまで積み重ねてきた友好関係が、更に深まるものと交流の意味深さを強く感じさせられた訪問となりました。

淡路市・義烏市友好都市提携5周年記念

淡路市企画情報部秘書広報課国際交流員 薛 秋燕

中国義烏市と友好都市協定5周年を記念し、市民2名と市議会1名と行政3名計6名の使節団を結成して、7月10日から12日の2泊3日で義烏市を訪問しました。

私は今回で4回目の訪問となりました。通訳として、使節団が安全でスムーズに行程を進めることができるように準備をしました。以前の訪問で一番頭を悩ませたことは視察行程がよく変わることで、今回も渡航までメインの5周年記念式典の次第の詳細がなかなか決まらず不安でいっぱいでした。

そのような状況で訪問させていただきましたが、皆様のご協力のお蔭で、心温まる歓迎を受け、人と人との交流の大切さを味わってきました。今回の訪問では印象に残ったことは5つあります。

1.友好関係の推進

7月10日（水）、現地に到着した日の夜、義烏市外事弁の職員と調印式の詳細について協議しました。7月11日（木）に、義烏市人民政府の会議室で義烏市の常務副市长と淡路市の議長（両市の市長は公務のため欠席、事前署名済み）が確認書に署名を行ない、無事に調印式を終えました。これまでの交流を通して積み上げてきた両市の信頼関係を礎として、友好関係を更に推進することを約束しました。



2.知東学会の若い経営者の心遣い。

例年のように、淡路市視察団に対して、知東学会主催による懇親会を開催していただきました。最初に案内してもらったのは今年4月に淡路市を訪問した『星空集美』という会



社でした。玄関先で花束と会議室では歓迎横断幕を用意され、使節団を笑顔で温かく迎えてくれました。そのお蔭で皆様の緊張感がすぐに打ち解けました。夕食会では通訳が私一人でしたが、団員たちがポケトーク（翻訳機）を使ったり身振り手振りをしたり、若いメンバーとの交流を楽しんでいました。

3. 義烏市政府が両市の友好関係を大切にす熱意

2日目は『淡路市・義烏市友好都市協定確認書調印式』です。調印式前に、義烏市多佳副市長の案内で義烏市都市計画展示館を視察しました。都市計画展示館では、5周年記念イベントの一環として、ホールの大型スクリーンで淡路島の観光プロモーションムービーと門市長のメッセージ動画が放映され、淡路市紹介展示パネルと両市の小学生の絵画作品も展示されました。団長の山名部長と副団長の太田議長が飛び入りのインタビューを受け、翌日義烏市の地元テレビ番組で放送されたそうです。両市の友好交流関係を大切にして、もっと多くの義烏市民に知ってほしい熱意を感じられました。意見交換会では、義烏市側からは今後「経済交流」、「観光交流」、「教育交流」について協力し合い、実りある交流を実現したいとの提案をいただきました。



4. 市役所表敬訪問と外事弁公室サービスセンター視察

義烏市市役所は建築年数30年の8階建の重厚感のある庁舎です。淡路市役所と違って、義烏市は人口200万の大都市で、市長1名と副市長15名体制で、本庁勤務は市長、副市長と共産党委員会委員のみとのことです。他の職員については出先機関での勤務です。

外事弁公室サービスセンターは全ての外国人向けの入国管理と行政サービスセンターとして機能し、いろいろな国の方々が利用されており、国際的な商業貿易都市としての大きな役割を果たしていることを感じました。現在、義烏市

内の在住外国人約 15,000 人で、主な人種はアラブ、韓国、インドとマレーシアです。これから両市が在住外国人支援について交流が出来たらと思います。

5. 今後について

今年は友好都市協定 5 周年を迎え、今後より多くの分野で交流を深め、共に発展していく新たなスタートの年であります。これからも多くの方々がお互いの都市を行き交い、学び合い、信頼の絆を深めていくことを願っています。



中华人民共和国浙江省义乌市与 日本国兵库县淡路市 友好城市协定确认书



2019年，中华人民共和国浙江省义乌市与日本兵库县淡路市迎来缔结友好城市五周年。

值此五周年之际，两市决定以2014年7月11日签署的友好城市协议为原则，在两市多年友好交往的基础上，进一步推动双方在各领域的友好合作，签署友好城市协议确认书。

双方对以下内容再次进行明确：

1. 双方要在行政、观光、经济、文化、教育、人才等各领域加强多样化的交流，促进双方共同繁荣与发展。
2. 双方通过信息互通与共享，深化友好关系，增进友好城市间的相互理解，进一步促进两市及两国的友好关系与繁荣。
3. 双方委派义乌市人民政府外事办公室与淡路市役所企画情报部秘书广报课为双方各自具体负责交流的联络窗口。

此协议书经双方共同见证并同意于签署之日起生效。本协议书由中、日文两种文字写成，一式两份，两种文本同等作准。

中华人民共和国浙江省义乌市市长

日本国兵库县淡路市市长

王健

門康彦

中华人民共和国浙江省义乌市副市长

日本国兵库县淡路市议会议长

陈小忠

太田善雄

2019年7月11日于中华人民共和国浙江省义乌市



淡路市

日本国兵庫県淡路市・中華人民共和国浙江省義烏市

友好都市協定確認書



中国・义乌
Yiwu China

本年2019年、日本国兵庫県淡路市と中華人民共和国浙江省義烏市との、友好都市提携協定締結5周年を迎える。

淡路市と義烏市は、2014年7月11日の友好都市協定に基づき、これまでの交流を通じて、積み上げてきた両市の信頼関係を礎として、友好関係をさらに推進するため、友好都市協定確認書を締結する。

以下の項目については、再確認することとする。

- 1 双方は、行政、観光、経済、文化、教育、人材をはじめ、様々な分野における交流を通じて、相互の繁栄と更なる発展に努める。
- 2 双方は、両市及び両国の友好関係と繁栄に寄与するため、お互いに情報発信を行い、友好関係を深め、友好都市間の相互理解に努める。
- 3 双方は、淡路市役所企画情報部秘書広報課及び義烏市人民政府外事弁公室を窓口とし、交流及び協力する取組について調整をする。

この協定書は、日本語及び中国語により作成し、両文書はともに同等の効力を有し、署名の日から有効となる。

2019年7月11日 中華人民共和国浙江省義烏市にて、

日本国兵庫県淡路市長

門 康彦

中華人民共和国浙江省義烏市市長

王 健

日本国兵庫県淡路市議会議長

大田善雄

中華人民共和国浙江省義烏市副市長

陈小忠

淡路市海外視察団派遣事業

淡路市友好親善使節団(中国義烏市)帰国報告書

発行・編集 淡路市企画情報部秘書広報課
兵庫県淡路市生穂新島 8 番地
TEL(0799)64-2501(直通) FAX(0799)64-2531

発行年月 令和元年 8 月